

## 令和5年度 授業創造プラン

5年

教科	児童の実態 (Gテストを含む)	具体的な取組【評価の観点】
国語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の読み書きでは、市の平均は超えているものの、苦手意識をもっている児童が多い。また、普段から既習の漢字を使おうとする意識にも差がある。(総合学力調査平均得点率：77%)</li> <li>文章の読み取りについては、内容理解に個人差がある。また、全体的に、進んで読書をしたり、分からない言葉を辞書やインターネットなどを活用して調べて解決したりしようとする意識は低いように感じる。(総合学力調査平均得点率：65%)</li> <li>表現については、自分の考えをもつことはできるが、それを言葉や文章で適切に表現することが苦手な児童が多い。そのため、テストの文章問題で空欄のまま提出する児童も多い。(総合学力調査平均正答率 66%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段の学習や自主学習などでノートを書くときには、進んで漢字を使うよう声を掛けていく。</li> <li>「たずねびと」の物語文や「固有種が教えてくれること」の説明文などの学習を通して、登場人物の言動に注目しながら内容の読み取りを進めるとともに、クロームブックを活用するなどして言葉調べの時間を確保し語彙力を高めていく。</li> <li>「よりよい学校生活にするために」の単元では、同じ課題をもつ友達との話し合いを通して、自分の考えを伝えたり、相手の考えを受け入れたりするなど、話す・聞く技能のさらなる向上を目指していく。</li> </ul>
算数科	<ul style="list-style-type: none"> <li>かけ算の筆算についてはおおむねできているが、わり算の筆算では商を立てる場所を間違えたり、商の予想ができず時間が掛かってしまったりする児童がいる。(総合学力調査平均得点率：71%)</li> <li>図形の角や作図では、分度器を正確に活用して測定する作業や、定規やコンパスを活用して図形を描く作業に苦手意識のある児童がいる。(総合学力調査平均得点率：64%)</li> <li>問いに対し、どの資料を活用して回答すればいいのか判断できない児童が多いことが総合学力調査の結果から分かった。(総合学力調査平均得点率：59%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「5年のふくしゅう」の単元で、これまで学習した四則計算について復習するとともに、クロームブックでミライシードなどを活用し、理解を深め、技能の定着を目指していく。</li> <li>「正多角形と円周の長さ」や「角柱と円柱」の単元で、様々な図形の性質を理解するとともに、作図や展開図に必要な用具を用いて正しく描く技能の習得を目指していく。</li> <li>「平均」や「割合」、「変わり方調べ」の単元では、問題や資料から必要な情報を選択し、問いに対して正しく立式することができるよう、繰り返し問題に取り組み、理解を深めていく。</li> </ul>